



2024年11月8日

各位

会社名 株式会社中村超硬
代表者名 代表取締役社長 井上 誠
(コード番号：6166 東証グロース市場)
問合せ先 取締役管理本部長 田植 啓之
(TEL. 072-274-0007)

中間連結会計期間の連結業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

2024年5月13日に公表しました2025年3月期中間連結会計期間の業績予想と本日公表の実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2025年3月期中間期業績予想と実績値との差異

2025年3月期中間期連結業績予想と実績値との差異(2024年4月1日～2024年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 中間期純利益	1株当たり 中間期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,550	△20	△30	△70	△6.35
今回実績 (B)	1,526	△10	△19	△25	△2.29
増減額 (B - A)	△23	9	10	44	
増減率 (%)	△1.5	—	—	—	
(ご参考) 前期中間期実績 (2024年3月期第2四半期)	1,191	△200	△205	△265	△24.05

2. 差異の理由

2025年3月期中間連結会計期間の連結業績については、化学繊維用紡糸ノズル事業においては炭素繊維用ノズルの受注が好調を維持しているとともに、D-N e x t 事業における、パワー半導体・難削材向けダイヤモンドワイヤの販売拡大も進捗いたしました。しかしながら、特殊精密機器事業においては第1四半期に引き続いて工作機械業界や電子部品業界が低調に推移したことにより、耐摩耗工具関連分野及び実装機用ノズルの受注が落ち込むこととなりました。

これらの結果、連結売上高は1,526百万円と前回予想値を1.5%下回りましたが、原価低減や経費削減の効果もあり、営業損失は10百万円となり前回予想値から縮小する結果となりました。また、特殊精密機器事業及びD-N e x t 事業における設備投資や設備改造を抑制したことにより、減損による特別損失の計上が前回予想値に織り込んでいた額を下回ったため、親会社株主に帰属する中間期

純損失は前回予想値から縮小する結果となりました。

第3四半期以降については、特殊精密機器事業においては、工作機械や電子部品業界が引き続き低調に推移する見込みであるものの、新素材で製作した実装機用ノズルが量産販売開始となることや、D-N e x t 事業においてパワー半導体・難削材向けダイヤモンドワイヤの販売数量が引き続き増加する見込みであること、また化学繊維用紡糸ノズル事業においては炭素繊維用ノズルの受注が好調を維持する見込みであることから、2025年3月期通期業績につきましては、前回発表した業績予想値を据え置くことといたします。今後の市場・業績動向により修正の必要が生じた際には速やかに開示いたします。

※上記の業績予想等は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は、今後様々な要因により上記予想数値と異なる可能性があります。

以 上